ちょっと余暇話し

（株）愛橋　安見和夫

≪ルーツ探しの旅行記≫

・きっかけ

前から一度行きたい橋があった。「安見橋」と云う私と同姓の橋である。きっかけは３年前ＨＰで偶然に見つけ、もしかして私のルーツかなと、その役場へメールをした、「地名は安見だが、その様な姓の方はいない」という返事が返ってきた。しかし、何か引かれるものがあり、今回の旅行を計画した。

せっかくだからといろいろと欲張り、以前から訪ねて見たかった「高千穂・熊本・大分」を回る３泊４日の旅とした。そして宿泊については妻と二人なので道中にある「道の駅」でキャンプ（家内は大反対---料理は私がする事で納得）でも、と気楽に考えていたところ、以前からお世話になっている U 氏がこの計画に興味をもち２家族４名で出かける事になった。計画変更したのは U 氏の希望で開通後、５ヶ月足らずで１００万人が訪れた「九重夢大吊橋」を渡る事と、宿泊はテントでは無く民宿かビジネスホテルに泊まらせてほしいという事だった。（笑）

・ 1 日目

松山ＩＣで高知からの U 氏と合流し、私の愛車(ホンダＣＲＶ 平成７年製)で八幡浜港フェリー乗り場へ急いだ。この日の予定は臼杵港から～犬飼～竹田～阿蘇山の東～高千穂峡の予定であった。この日は快晴で道中の道の駅では「里神楽(さとかぐら)」を観賞し、また阿蘇高原では牛の放牧を見ながらの楽しいドライブであった。高千穂峡では、五ヶ瀬川が溶岩を浸食した「柱状節理」を眺めながら歩いていると石造りの神橋（しんばし）があった。ＨＰによると昭和２２年に架設された橋梁で、橋長 31.5m のコンクリートアーチの上に石組する方法で架けられている。また、その上流には鋼製ｱｰﾁの高千穂大橋、次に橋長 300m のＲＣ逆ランガーの神都高千穂大橋（しんとたかちほおおはし）が続いていた。この橋は高千穂の風景にマッチしたすばらしい構造美を提供しており見る者を感動させるには十分である。

神都高千穂大橋

ただ逆に、遊歩道に架かっていたＲＣのアーチ橋とＲＣ方杖ラーメン橋は、デザインが周囲の景観とはあまりマッチされていない橋梁で、非常に残念であった。東国原知事「どげんかして！」。

「どげんかして！」の RC 方杖ラーメン橋

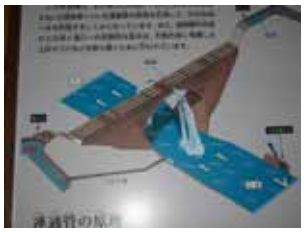
囲炉裏を切った風情のある民宿で夕食後、高千穂神社の神楽殿へ夜神楽の鑑賞に行った。1 時間程度の演舞であるが会場は観光客で満席、舞いは観光協会の人（ボランティア）が交代で行っており観客が一人でも開演をするそうです。
入場料は大人５００円。

この後、部屋で地元の焼酎「天孫降臨」を飲もうとＵ氏を誘うと、一生懸命ノートパソコンでその日に撮った写真を整理している。いつもの事だそうで、その日の仕事を、次の日に回さず処理するのはさすが技術士で工学博士である。

・ 2 日目

今旅行メインの一つである「通潤橋」に着いた。天気は雨模様になったが、予想通りすばらしく美しい橋であった。また、通潤橋資料館では案内していただいた方に、肥後石工の歴史・目的・構造・維持補修・当時の示法書等を丁寧に、教えてもらい大変お世話になった。放水（ゆる抜き）は農閑期の１０月～１２月の土・日、祭日に行い、また、５月の連休期間中は、１０時、１２時、１４時に

観光客のために放水している。栓を抜くと、きれいに弧をえがいた水が、山の背面のあじさいとあいまってすばらしい風景である。天気が良い日にもう一度訪れたい。



連通管の原理（資料館）

雨の通潤橋

木管の役割（資料館）

さて、いよいよメインの「安見橋」である。ネットで大体の場所は調べて来たがよく分からない。この旅行のため、安いカーナビを購入したが２日目から壊れてしまい役立たずである。見かねたＵ氏がビニールハウスで働いていた婦人に尋ねてくれた。かさねて、私のルーツに関しての質問には「このあたりの地名は安見だがその姓の人は住んで無い」という事であった。狭い路地を行くとありました。「安見橋」。構造形式は、場所打ちＰＣ中空床版橋。この横にりっぱな石造りのアーチ橋があり橋名は「下鶴橋」である。本当の橋名はこれが正しく、安見地区と下鶴地区を結んだ橋である。１８４８年に肥後の石工「祐介」によって架けられた橋長 22.70m、幅 3.70m、スパン 19.90m、アーチライズ 7.20m の石橋である。橋詰の石柱に「此の橋、車通る扁から須」と書かれていた。結局、私のルーツとは関係なかったが、これからも、この橋は末永く地元の人々に親しまれ、橋の持つおもしろさや石の文化を継承してもらいたい。

石橋めぐりも終わり、今晩の宿泊地熊本市内に入った。夕食は、辛島公園近くの居酒屋で馬刺し付き食事、飲み放題で何と３,５００円也。開店１０周年記念で特別料金、おいしい料理でラッキーと思っていたが、会計担当の私がおつりを過少に受け取ってしまい、結局５,０００円近く支払った事になったが、それでももう一度行きたい程おいしかった。

新しい安見橋と下鶴橋

- 3 日目

「九重夢大吊橋」は、九酔渓の上空に架けられた日本一の長さと高さを誇る吊橋である。主塔間 390m,幅員 1.5m、水面からの高さ 173m の長径間２ヒンジ補剛吊り橋である。入場料５００円を支払い渡り始めると揺れる揺れる。みんな「よちよち歩き」で渡っている。雨で視界が悪いので恐怖感はあまりないが、床面がグレーチングなので天気がよければ高所恐怖症の人は渡れないかもしれない。

九重夢大吊橋

九重 IC から高速道路に乗り別府市内のホテルに着いた。この日の夕食は、地元の新鮮な関サバ、関アジを堪能した。夕食前に市営の竹瓦温泉(入浴料１００円)に入ったがこの界隈はレトロ調で中高年の旅にはバッチリである。過去には別府温泉といえば西の熱海といわれ、社内旅行・団体旅行で賑わったが最近は家族・個人旅行にターゲッ

トを絞って、リピータ-を増やす努力をしている。

竹瓦温泉（写真中央が筆者）

- 4 日目

いよいよ旅行の最終日。予定はフェリーに乗って家路に着くだけである。計画通り観光地・石橋等を見学して満足する旅行であった。フェリーの出発まで時間があったので、計画外だが、明礬温泉近くの「別府明礬温泉橋」を見学した。この日も生憎の雨で全景は拝めなかったが,アーチ支間 235m の基部材は頼もしかった。建設当時、ＰＣ技術専門書にコンクリートと明礬温泉の成分に関する研究が載っていた記憶があるが、このような研究される方々には頭が下がります。

- おわりに

「安見橋」は私のルーツとは無関係だったが、いろいろな意味で心に残る旅であった。橋梁に携わる者として、通潤橋や下鶴橋の石橋群を見ることにより日本の橋のルーツをかいま見る事が出来ました。そこに暮らす人々のために魂を捧げて造った先人技術者達の知恵と努力、また不断の努力によりそれらを形にした石工達に敬服し感謝します。